

振替払込
受付証明書
(E票)
貼付欄

必ず郵便局・銀行
等の窓口で振り込
みください。

申込場所

北海道大学高等教育推進機構1階 6番公開講座窓口

実施会場

北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室

札幌市北区北17条西8丁目

地下鉄「北18条」駅下車徒歩9分(約500m)

中央バス「北18条西5丁目」下車徒歩7分(約400m)



●自家用車での来学について

駐車場狭いため、できる限り公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車で来学される方は、北20条東門から入構願います。その際入り口ゲートで発券された臨時入構券は、必ず公開講座担当者へ提出し、確認印を受けてください。確認印がないと出構できません。駐車場は高等教育推進機構北側の駐車場をご利用ください(北13条門から入構した場合、機構北側駐車場へは通り抜けできません)。なお、出構時に入構料として300円を徴収いたしますので、あらかじめご了承ください。

平成24年度

北海道大学 公開講座 (全学企画) 私たちの未来とリスク

申込期間 平成24年 6/4 月 ▶ 6/26 火
《土曜、日曜を除く》9:00~17:00

実施期間 平成24年 7/2 月 ▶ 7/30 月
18:30~20:30

会場 北海道大学情報教育館3階
スタジオ型多目的中講義室
(札幌市北区北17条西8丁目)

受講料 5,000円

講師略歴

教育学研究院 教授 河口明人 (かわぐち あきと)

第1回

1974年北海道大学文学部卒業、1984年旭川医科大学医学部卒業、都立豊島病院、国立循環器病センター、および同研究所を経て2003年北海道大学・大学院教育学研究科(現研究科)教授、健康科学担当。専門は、循環器内科学。動脈硬化症を焦点とした生活習慣病予防、健康増進の視点から、札幌ライフスタイルスタディなどの地域住民を対象とした臨床疫学研究を実施。

文学研究科 教授

金子 勇 (かねこ いさむ)

第2回

1949年福岡県生まれ。九州大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。第1回日本計画行政学会賞、第14回日本都市学会賞。文学博士。北海道大学大学院文学研究科教授。専門は社会学。単著は「都市高齢社会と地域福祉」(ミネルヴァ書房、1993年)、「高齢社会・何がどう変わるか」(講談社、1995年)、「少子化する高齢社会」(NHK出版、2006年)、「社会分析」(ミネルヴァ書房、2009年)。「コミュニティの創造的探求」(新曜社、2011年)、「高齢者の生活保障」(編著、放送大学教育振興会、2011年)など。

法学研究科 教授

鈴木一人 (すずき かずと)

第3回

1993年立命館大学国際関係学部(飛び級のため)中退、英国サセックス大学欧州研究所博士課程修了。Ph.D(現代欧州研究/国際関係)。筑波大学国際総合学類専任講師、助教授を経て、2008年に北大公共政策大学院准教授、2011年に同教授。2012年3月から法学研究科教授。専門は国際政治経済学、科学技術政策。「民間事故調」のWGメンバーとして福島原発事故調査に参画。著書に「宇宙開発と国際政治」(岩波書店)、共著に「EUの規制力」(日本経済評論社)など。

教育学研究院 教授

松本伊智朗 (まつもと いちろう)

第4回

1959年大阪府堺市生まれ。主な研究テーマは、子どもの貧困と社会的排除に関する研究、要養護児童の社会的自立に関する研究。北海道子どもの虐待防止協会運営委員、日本子ども虐待防止学会評議員、雑誌「貧困研究」「季刊児童養護」「子どもの虐待とネグレクト」の編集委員、NPO法人CAN代表理事などを務める。主な著作に「子どもの貧困—子ども時代のしあわせ平等のために」(共編著、明石書店、2008年)、「子ども虐待と貧困—忘れられた子どものいない社会をめざして」(編著、明石書店、2010年)など。

農学研究科 教授

平野高司 (ひらの たかし)

第5回

1984年北海道大学農学部農業工学科卒業、1986年同大学院農学研究科修士課程修了、博士(農学)(大阪府立大学)。大阪府立大学農学部助手、助教授、北海道大学大学院農学研究科助教授を経て、2006年より現職。専門は、農林気象学、生態系情報学。道内および海外のフィールドで陸上生態系と大気環境との相互作用に関する研究を行ってきた。現在は、森林や湿原における二酸化炭素吸収量の定量化やモデル化に取り組んでいる。

理学研究院 准教授

勝俣 啓 (かつまた けい)

第6回

1988年東北大学理学部卒業、1993年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士(理学)。北海道大学理学部助手、東京大学地震研究所准教授を経て、2009年より北海道大学大学院理学研究院准教授。専門は地震学。現在は地震観測データ等を用いて地震発生に至る準備過程に関する研究を行っている。

工学研究院 准教授

濱田靖弘 (はまだ やすひろ)

第7回

1993年北海道大学工学部衛生工学科卒業、1995年3月同大学院工学研究科衛生工学専攻修士課程修了、1995年9月同大学院工学研究科衛生工学専攻博士課程中退。博士(工学)。北海道大学工学部助手、同大学院工学研究科助教授を経て、現在、同大学院工学研究院准教授。研究分野は、建築環境・設備、環境技術、エネルギー学。所属学会は、空気調和・衛生工学会、日本建築学会、日本太陽エネルギー学会、エネルギー・資源学会、日本雪工学会、人間生活環境系学会、日本冷凍空調学会。

サステナビリティ学教育研究センター 教授 田中教幸 (たなか のりゆき)

第8回

1976年北海道大学水産学部卒業、1982年北海道大学水産科学院博士課程を修了。水産学博士。環境中の自然・人工放射線の挙動とそれを支配する生物地球化学過程の研究に従事した。水産科学奨励会研究員、米国エール大学博士研究員、米国ニューヨーク州保健局研究員、北海道大学大学院地球環境科学研究所(現環境科学院)助教授、海洋科学技術センタープログラムディレクター代行、グループ・リーダー、米国アラスカ大学客員教授を経て現在、北海道大学サステナビリティ学教育研究センター教授、環境科学院教授を兼任している。現在、サステナビリティ学と教育プログラムの確立、持続的地域構築に貢献する活動をしている。

私たちの未来とリスク

講座内容

東日本大震災を契機として、私たちの社会のあり方が見直されるなか、「リスク」をキーワードに、多面的な視点から、科学技術や防災、エネルギー、社会福祉などの課題にアプローチしていきます。

申込期間

平成24年6月4日（月）～平成24年6月26日（火）
《土曜、日曜を除く》9：00～17：00

実施期間

平成24年7月2日（月）～平成24年7月30日（月）
18：30～20：30

定員

100名程度

受講料

5,000円
※専用の払込票にてお支払いください。払込受付証明書(E票)は、受講申込書の所定の位置に貼付のうえ提出願います。なお、既納の受講料はお返しできませんのでご了承ください。

会場

北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室
(札幌市北区北17条西8丁目)

受講資格

18歳以上の方であればどなたでも受講できます。
(学歴・職歴は問いません)

特定回の受講

全8回の講義のうち、定員に余裕がある場合は、特定回の単発で受講することが可能です。希望される講義の開催3日前までに問い合わせ先までご連絡ください。なお、特定回の受講料は1回あたり1,500円です。

修了証書

6回以上受講した方には、最終講義終了時に修了証書を交付します。

道民カレッジ

本講座は道民カレッジ連携講座として指定されています。
(環境生活 16単位)

申込手続きの流れ

- はじめに、定員の超過の有無をご確認ください。
 - 定員に余裕がある場合
- 専用の払込票により、郵便局または銀行等の窓口で受講料をお支払いください。その際、控えとして受け取った「振替払込受付証明書(以下、E票)」は、受講申込み時に必要ですので失わないようご注意ください。
- E票を裏面に添付した受講申込書を直接窓口へご持参いただくか、郵送でお申し込みください。

問い合わせ・申込先

国立大学法人北海道大学学務部教務課(教育推進担当)
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 高等教育推進機構 1階 6番公開講座窓口
電話 011-706-5567 (直通)

自家用車での来学について

駐車場狭隘のため、できる限り公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車で来学される方は、北20条東門から入構願います。その際、入り口ゲートで発券された臨時入構券は、必ず公開講座担当者へ提出し、確認印を受けてください。確認印がないと出構できません。駐車場は高等教育推進機構北側の駐車場をご利用ください(北13条門から入構した場合、機構北側駐車場へは通り抜けできません)。なお、出構時に入構料として300円を徴収いたしますので、あらかじめご了承ください。

日程	講義題目	講師	講義概要
第1回 7/2 月	健康とリスク —健康の社会的規定要因—	教育学研究院 教授 河口 明人	健康や疾病は個人に現れるが、その原因や結果あるいは影響は個人的課題ではなく、むしろ遙かに社会的な課題である。健康は人生の全過程における多様な社会的な諸条件によって規定されている。競争・ストレス社会では自殺が増え、血圧は上昇する。現代ではむしろ貧しい人々に肥満者は多く、経済格差は教育格差を通して健康格差に連動する。現代社会のリスク認識は、疾病や個々人のリスク行動を認識する上で重要である。
第2回 7/5 木	「少子化する高齢社会」の リスクとタスク	文学研究科 教授 金子 勇	「少子化する高齢社会」の現状を社会学の観点から詳述する。最初に少子化と高齢化との関連をまとめ、マクロ社会学から高齢社会システムの位置づけを行い、リスクとタスクの両方を論じる。加えて、ミクロ社会学の側からは、高齢者個人によるサクセスフル・エイジングの達成方法について、調査結果に基づき整理する。健康づくり、生きがい、社会参加、役割創造などがテーマとなる。また、「予防原則」と「予備原則」との対比から、社会的・個人的タスク追求の問題を考える。
第3回 7/9 月	福島原発事故から見る 科学技術の社会的リスク	法学研究科 教授 鈴木 一人	科学技術は誰のものであり、誰が管理するものなのか。福島原発事故は、人間が科学技術をコントロールしきれず、社会に多大な損害を与えたが、その原因として安全規制の甘さや「原子カムラ」の存在が指摘された。IT技術とロボット技術の発達は、無人兵器を生み出している。遺伝子組み換え食品のように、その技術の危険性ははっきりしていないものもある。科学技術のリスクを社会はどうコントロールするべきなのだろうか。
第4回 7/12 木	子ども・若者が直面する 「リスク」と貧困・社会的不利	教育学研究院 教授 松本 伊智朗	人はさまざまな試行錯誤と失敗から学び、成長します。ですから失敗は、できれば避けたいものであると同時に、歓迎されるべきことも知れません。これは子ども・若者にとっても同様です。しかし現実には、失敗がリスクに直結する構造があります。この点を貧困・社会的不利という観点からとらえて、「安心して失敗できる仕組み」の大切さを考えてみたいと思います。
第5回 7/19 木	地球温暖化と二酸化炭素 —陸上生態系による調節—	農学研究院 教授 平野 高司	地球温暖化は人類が直面している最も深刻な環境問題の一つであり、その主要な原因物質は、石油・石炭などの使用によって排出される二酸化炭素です。二酸化炭素は森林や海洋によって吸収・固定されますが、排出量の全てを吸収することはできず、年率約2ppmで大気中の濃度が上昇を続けています。地球温暖化の状況や、森林などの陸上生態系が持つ二酸化炭素吸収機能などについて解説します。
第6回 7/23 月	地震予知研究 —最新の成果と課題—	理学研究院 准教授 勝俣 啓	1995年阪神・淡路大震災以降、微小地震やGPS観測網が急速に整備され、平成21年度からは「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」が5ヶ年計画でスタートした。実用的な地震予知は、東海地震を除いて、いまだ実現していないものの、地震の本質に迫る重要な成果が最近次々に得られている。これらを学ぶとともに北海道での地震防災について考える。
第7回 7/26 木	次世代分散型電源と 自然冷熱エネルギーの有効利用	工学研究院 准教授 濱田 靖弘	2011年3月11日の東日本大震災を契機として、社会のあり方の再構築、未来のリスクへの備えが求められている。本講義の内容は、次世代分散型電源と自然冷熱エネルギーの有効利用に関するものである。分散型電源の一例として燃料電池を取り上げ、その高い省エネルギー性と、地域全体の節電への大きな導入効果について述べる。自然冷熱エネルギーは主に雪水資源の活用で、空調分野、農業、水産業など将来的な可能性について考える。
第8回 7/30 月	北方圏都市の持続的発展の 未来像	サステイナビリティ学 教育研究センター 教授 田中 教幸	化石燃料からのエネルギーに支えられた現代文明の落とし子である都市の営みと利便性は安価なエネルギー資源が使える時代が終わると共に、大変な状況を迎えることになる。持続的な社会を作り上げていくには低エネルギーで快適に暮らすための都市への転換を、直ぐに着実に始める必要がある。本講義では低エネルギーで快適に暮らせ、環境に優しい経済で支えられる持続的未來都市ビジョンを紹介し、その実現に、今私たちは何を始めなければならないかを一緒に考察する。

平成24年度 北海道大学公開講座 受講申込書

ふりがな 氏名	年代 (__0歳代) 男・女
〒	
現住所	
TEL () -	

(アンケート)下記に該当する部分に○をつけてください。

問1. あなたはこの講座をどのようにして知りましたか。

1. 新聞
 2. インターネット
 3. 受講案内(直接送付されたもの)
 4. 受講案内(学習センター・図書館・ちえりあに置いてあったもの)
 5. 受講案内(ふれあい広場に置いてあったもの)
 6. 道民カレッジガイドブック・ホームページ
 7. 友人・知人からの誘い
 8. その他()

問2. 受講を申し込むにあたり、どなたかを誘われましたか。

1. 友人 2. 知人 3. 家族 4. その他

問3. 誘った結果はどうでしたか。

1. 申し込んだ 2. 申し込まなかった 3. わからない

問4. あなたは過去に大学が主催する公開講座を受講したことがありますか。

1. ある 2. ない

問5. 問4で「ある」と答えられた方は、以下から該当するものを全てお選びください。

1. 北海道大学の全学企画の公開講座を受講したことがある。
 2. 北海道大学の各研究科等が主催する公開講座を受講したことがある。
 3. 北海道大学以外の大学公開講座を受講したことがある。

問6. あなたは道民カレッジの学生になっていますか。

1. はい カレッジ生番号() 2. いいえ

問7. 今後、受講案内の送付を希望しますか。

1. はい 2. いいえ

・担当者記入欄

日付	番号
----	----

※申込書に記入した個人情報(本学の行事等の案内以外)には利用いたしません。